

自習用課題解答

(1) (c) bring → take

(訳) あなたが買い物に行くとき、このメモを食品売り場の責任者のところに持って行ってくれませんか。

動詞の語法の問題である。**bring**は「～を持ってくる」、**take**は「～を持っていく、連れて行く」という意味である。

(2) (c) has been laying → has been lying

(訳) 建設業者は週末しか作業ができないので、フローリング用木材は外の庭に置いたままになっている。

動詞の語法の問題。**lay**は「～を横たえる」という他動詞、**lie**は「横たわる」という意味の自動詞である。

混同しやすい自動詞と他動詞を以下に挙げておく。活用までしっかり覚えること。

lie-lay-lain-lying : 自動詞 「横たわる」

lay-laid-laid-laying : 他動詞 「～を横たえる」

rise-rose-risen-rising : 自動詞 「上がる」

raise-raised-raised-raising : 他動詞 「～を上げる」

sit-sat-sat-sitting : 自動詞 「座る」

seat-seated-seated-seating : 他動詞 「～を座らせる」

fall-fell-fallen-falling : 自動詞 「倒れる・落ちる」

fell-felled-felled-felling : 他動詞 「～を倒す」

(3) (d) looked like → looked

(訳) 私が病院に彼を見舞ったのは、その事故からたった2日後であったが、彼は元気そうだった。

lookは自動詞で「～のように見える」という意味があるが、補語に形容詞をとる場合 **like**は不要。**like**が必要なのは、補語に名詞をとる時である。

(4) (c) was consisted → consisted

(訳) 当時、カリフォルニアの人口の訳 10 分の 1 が、鉄道で働きに来た中国人の移民であった。

「～から成り立つ」は **consist of O** または **be composed of O**、**be made up of O** という形をとる。

ちなみに、**consist** について、**sist** は「立つ」という意味の語幹、**con** は **together** という意味の接頭辞である。**insist** や **persist** も同語源の単語である。「立つ」という意味の動詞 **stand** が自動詞であることから、**consist** も受動態にできないことは想像がつく（自動詞は受動態を作らない）。

さらに、**compose** について、**pose** は「～を置く」という意味の語幹である。**propose** が同語源の単語である。「～を置く」という意味の動詞 **put** が他動詞であることから、**compose** は受動態にして用いることは想像がつく。

(5) (d) graduated college → **graduated from college**

（訳）ミラーさん一家は、フランクが大学を卒業した直後に、サンフランシスコの今の家に越してきた。

graduate は「卒業する」という意味の自動詞であり、「～を卒業する」という意味にする場合には、**graduate from ~** という形にする。

(6) (d) almost → **almost all** または **most**

（訳）西部に人々が移住していた初期の時代には、馬は主たる交通手段であったので、ほとんどの開拓者たちは馬に上手に乗った。

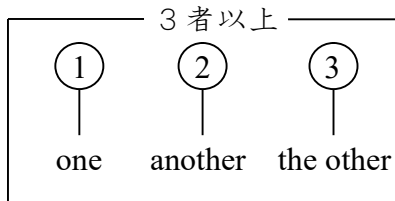
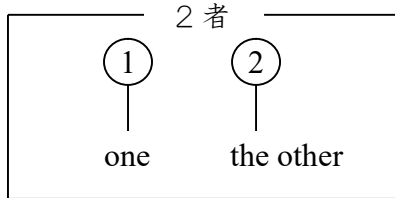
almost は副詞であり、直接名詞を修飾することはできない。**almost all** で形容詞句となり、名詞を修飾する。また、**most** は形容詞であるので、**most** だけで名詞を修飾することが可能である。

(7) (d) another → the other

(訳) ねえ、お二人。お互いの言うことをよく聞きなさい。

物の数え方の問題。今回は、2人の人間に対する発言であることから、**another** ではなく、**the other** を用いる。

物の数え方について、以下にまとめておく。



(8) (c) a Beethoven's violin concerto → a violin concert of Beethoven's

(訳) 新聞によると、今日の午後にボストン交響楽団によるベートーベンのバイオリン協奏曲がテレビで放映される。

所有格の表し方の問題。~'s という形の所有格は、冠詞相当語句 (**a, an, the, some, any** 等) と共に用いることができない。冠詞相当語句を用いる場合は、「**冠詞+名詞+of+所有代名詞**」の形にする。

(9) (c) those → that

(訳) ある国の経済と他国の経済を比較する、多くの異なる方法が存在する。

代名詞の問題。**that** は「**the+前述の単数名詞**」、**those** は「**the+前述の複数名詞**」を受ける。今回であれば、**the economy of one nation** が元の形であるので、**those** を **that** になおす。

(10) (c) gave me an advice → gave me (some) advice

(訳) 私たちがその問題について議論していたとき、私の友人の一人が忠告をしてくれた。そしてそれは、解決策を見つけ出すのに役立つとわかった。

advice は不可算名詞である。

(11)(a) scientific proofs → scientific proof

（訳）今日、シートベルトの着用が、自動車事故における死の数を劇的に減らすという科学的証拠がある。

proof は不可算名詞である。

(12)(b) all informations → all information

（訳）指示を読み、必要な情報をすべて記入し、はさみで点線にそって切りなさい。

information は不可算名詞である。

(13)(d) great → greatly

（訳）先週末、そのデパートでは、洋服、スカート、靴、子供服が大幅に下げられた価格で宣伝されていた。

形容詞・副詞にまつわる問題。reduced が「下げられた」という意味の過去分詞であり、名詞 prices を修飾する形容詞の働きをしている。形容詞を修飾できるのは副詞である。

(14)(b) parents are possible → parents are able

（訳）子供がテレビを見すぎる時、テレビをつけていられる時間を親は制限することができる。

形容詞の語法の問題。possible は人を主語にとらない。

人を主語にとらない重要形容詞を以下に挙げておく。

dangerous 「危険な」 convenient 「都合が良い」

important 「重要な」 necessary 「必要な」 difficult 「難しい」

(15)(b) cheap → low または small

（訳）「どうして君は仕事をやめたのか不思議に思っていたんだよ。」
「給料が安かったからなんだ。10 パーセントの賃上げを要求したんだけど、拒否されたんだよ。」

大小高低を表す形容詞には注意が必要。salary とともに用いる形容詞は high / large / low / small である。

以下に、large / small で大小を表す他の重要単語を挙げておく。

audience 「聴衆」 income 「収入」 number 「数」 population 「人口」

(16)(b) teaches → teach

(訳) 良い身なりをし、自信を教えてくれるレッスンを受けることは、学生が社会的地位も給料も高い職業に就くのに役に立つと、多くの専門家は言っている。

構造分析が重要となる問題。teach の先行詞は lessons という複数名詞であることから、三単現の es は消す。

(17)(c) requires → require

(訳) 室内競技の中には、フットボールよりも断然体を使うことが少ないのだが、激しいプレーや、時には体の接触さえも求められるものがある。

構造分析が重要となる問題。下線部(C)の主語が Some indoor games であることから、三単現の s は消す。

(18)(a) Realizing that → As I realized that

(訳) 彼の言ったことが本当だとわかり、もっと勉強に費やす時間を増やし、遊びに費やす時間を減らすのは良い考えであった。

構造分析が重要となる問題。準動詞が出てきたら、その準動詞を中心に、主語・目的語・補語を取ってみて欲しい。本問であれば、文頭の方詞構文の意味上の主語がこの前に書かれていないため、このままでは、意味上の主語が it となり、文意が成り立たなくなる。

(19) (c) where → which

(訳) その作家は、よく自分の小説の中で扱うニューヨークで生まれたといわれている。

構造分析が重要となる問題。関係詞に関しては、①先行詞の有無②関係詞の後ろの形、この2点を確認したい。①②について、以下にまとめておく。

	先行詞有	先行詞無
後ろが 不完全文	関係代名詞 (what 除く)	what 複合関係代名詞
後ろが 完全文	前置詞+関係代名詞 関係副詞 (how 除く)	how 複合関係副詞

本問では、先行詞が **New York**、関係詞の後ろが不完全文（**with** の目的語の欠落）であるので、関係代名詞を用いる。

(20) (b) which → who

（訳）ずっと親友のままである人々は、私と同じ社会的価値観や政治的傾向を共有する人々である。

関係詞の問題。 **those who** ~で「~の人々」、 **that which** ~で「~のもの」という意味。

(21) (a) going → go

（訳）日本で英語を学んで外国に行くことは、早く英語を話せるようになるための2つの優れた方法である。

構造分析が重要となる問題。等位接続詞は、前後同じような形のものをつなぐ。 **to** 不定詞の共通関係（**study** にも **go** にも **to** がつく）が成り立っている。

(22) (b) entering the park → to enter the park

（訳）この地域では、安全ではないので、来訪者は暗くなってから公園に入ることを許されなかった。

permit O to V 「O が V するのを許す」の受動態である。

(23) (b) in going → to go

（訳）敬虔なクリスチャンとして、彼は日曜日に必ず協会に行く。

準動詞の問題。 **fail to V** で「必ず V する」。

(24) (a) to buy → in buying

（訳）その金持ちの男は、ビーチ沿いにあるその豪華なホテルを買うことに興味を抱いていたが、弁護士はそれは危険すぎると考えた。

be interested in Ving で「V するのに興味がある」。

(25) (a) The more I learned English words → The more English words I learned

（訳）英単語を多く身につければつけるほど、私は英語にますます興味を持つようになり、勉強をより一層楽しめるようになった。

比較の問題。整序問題であれ正誤問題であれ、比較の文を扱うときには、**比較の形にする前の核になる文をまず考える**。

本問では、I learned many English words.が核になる英文である。この英文の many を the more に変えて作ったのが問題となっている英文であるが、もともと many と English words はくっついているので、many が the moreにかわっても、English words はくっつけておかなければならない。

(26)(b)effects from eating → effects of eating

(訳) ジョンは、果物を食べ過ぎたせいで苦しんでいる。食べすぎはやめたほうが良い。

前置詞の問題。the effect of ~で「～の結果」、the effect on ~で「～に対する影響」という意味。

ちなみに、of のイメージは「材料」、on のイメージは「接触」である。

(27)(c)out the bank → out of the bank

(訳) もし彼女が銀行からもっとお金をおろしていたら、そのスーツケースが買えただろうに。

前置詞の問題。out of は「中から外へ」という意味の前置詞である。into はその逆で、「外から中へ」という意味の前置詞である。

(28)(a)Alike → Like

(訳) 他のエネルギー形態と同様に、LP ガスは、家を暖めたり、料理をしたり、さらには、車を走らせたりすることにさえ使われるかもしれない。

前置詞の問題。like は「～のように」という意味の前置詞、alike は「似ている」という意味の形容詞および、「同様に」という意味の副詞。

(29)(b)next meeting → the next meeting

(訳) 次回の会議は、5階の第2会議室で、4月15日の午前10時に開かれることをお知らせします。

冠詞の問題。「話者の間で、共通のものとして頭に浮かぶもの」には the がつく。

今回であれば、次回の会議という共通認識があるため the がつく。

(30)(b) mere presence → the mere presence

（訳）単に警官のパトロールがあるということが、犯罪や事故に対する大きな効果があるという明らかな証拠は存在しない。

冠詞の問題。文中で初めて出てくる名詞につく **the** を「後方照応（予告）の **the**」とよび、その名詞には後ろから修飾する語句がかかる。

本問では、presence という語が初めて出てくるうえに、後ろから of police patrols という形容詞句がついているので、**the** をつけておく。